

HopStepJump 12

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

授業づくり⑦

情報教育・ICT 機器を活用した

授業づくりについて

第12回の初任者研修は、池田市教育センターの中野正敏指導主事を講師に迎え、「情報教育・ICT 機器を活用した授業づくりについて」というテーマで研修を行いました。

はじめに Society5.0 や GIGA スクール構想といった国の動向について知り、子ども一人一台端末という時代がすぐそこにまで迫っているということを実感したのではないのでしょうか。

研修の後半にはタブレット等を使って、ICT 機器を活用した最後の学活の時間を考えるというグループワークを行いました。ワークを通して各市町の ICT 環境の整備状況や、活用方法等を知る機会にもなりました。講義の中では ICT 機器の活用方法にとどまらず、授業づくりや学級づくりについても、たくさん実践事例を紹介していただき、今後の教育活動に取り入れていきたいという方も数多くいらっしゃいました。

～振り返りシートより～

「社会が急速に変化する中で教育はあまり変化していない」という言葉をはじめに聞いて、確かにそうだなと思いました。自分たちはこう教えられてきたから、それを今の子どもに伝えるというのではなく、社会の変化に対応しながらこれからの子どもたちに必要な力を身につけさせられるような先生になりたいと感じました。

「10年後の社会の姿を想像して」と言われた時、ほとんど考えが浮かんでできませんでした。それだけ今の社会が急速に変化しているのだらうと思うし、子どもたちはそのような中で大人になり、社会に出ていくのだと思いました。私たちは今、目の前にいる子どもたちに社会で生きて使える力をつけられているのだらうかと考えさせられました。

よくICT 機器を使うことが目的ではないと言われるし、その通りだと思いますが、使わなければいつまでも使えず、慣れもせず、活用を自力ですることできないままだらうと思います。クラスの子どもたち全員が ICT 機器を活用できるようにするには、クラスの子どもたち全員に等しく ICT 機器を使う機会が与えられなければなりません。そう思うと、一人一台端末時代が待ち遠しいです。もちろん課題は山積みですが、その課題はICTを使い続けていくことでしか解決できないのだらうと思います。

ICT 機器の活用の必要性や教育方法などは情報として知っていましたが、なぜ、今、それらが求められているのか理解することができました。一人一台のタブレットをうまく使って、子どもたちの考えや理解を深めていくこととても役立つものだと感じました。「タブレットを文房具の一つとして」という言葉を聞いて、自分の経験から答えを導き出すだけでなく、そばにタブレットがいつもあって、自分で情報を集め、知識を増やし、理解を深めていくことは学び方としてとてもおもしろいと思いました。そのような ICT 機器やメディアを上手に使いこなすには、まずは教師の考え方や心が何より重要なんだと改めて気づきました。

講師の中野先生の「子どもの思考が生まれる導入」の話がとても印象的で、改めて「授業とはどうあるべきなのか？」を考えさせられた時間でした。私はICT 機器を使うことが好きで、よく使っていますが、自分の使い方は本当に子どものためになっていたのか、ICT 機器はもっと良い使い方があるのではないかと振り返りました。

後半の「ICT×最後の学活」を考えるワークは私たちのニーズにとってもあっており、「3月どうしよう・・・」という不安を少し解消することができました。他の先生方と話す時間も多く、「普段はこんなことをしているよ。」などと、有益な情報も手に入れられ、とても有意義な時間となりました。

ICT 機器を使った授業を何度かやってきましたが、どこか物足りなく、子どもたちがもっと授業に食らいつくような導入はどのようにすればよいのか迷っていましたが、そのヒントをもらえたような気がします。自分の教科でどのように活用してかはまだまだ考えなければいけませんが、道徳や学活、総合で有効活用する際のアイデアはグループのメンバーや他のグループの発表から学ぶことができました。次世代の教育活動について深く考えさせられた研修でした。